

## 9月の銅マーケットレポートおよび10月の見通し (3)

橋本アルミ (株) 橋本健一郎



## ■概況2

## 【伸銅品生産】

伸銅品生産は、前年比マイナス0.3%の6万97トン。13か月ぶりに減少。内訳は、内需が4万9993トンでマイナス0.3%。13か月ぶりマイナス。輸出は1万104トン。マイナス0.4%で10か月ぶりマイナス。銅条が1万9913トン、プラス6.9%の16か月連続増。黄銅棒は1万4424トン、マイナス1.4%、16か月ぶりマイナスとなっている。

## 【電線】

前年比プラス0.4%の5万3500トン。内訳では、国内がプラス0.4%、輸出がプラス2.2%、通信がマイナス7.1%、電力がマイナス21.8%、電気機械がプラス0.6%、自動車はプラス11.8%、建設電販がプラス2.5%、その他内需は0%になっている。

## 【輸出】

電気銅の輸出はマイナス2.3%の4万1439トン。銅スクラップはプラス47.4%の2万6291トン。

## 【輸入】

輸入はプラス90.7%の2102トン。スクラップはマイナス5.3%の1万1419トン。

## ■見通し

自動車は生産がプラス5.6%。国内販売台数が前年比プラス0.4%。生産は11か月連続プラス。販売が2か月連続プラス。

10か月ぶりの販売マイナスから微増ではあるが2か月連続プラスに。今後も続くのか注意が必要。

住宅着工の動向については、前年同月比でマイナス2%と2か月連続マイナス。下げ止まりかどうか今後の動向に注目。

伸銅品では、13か月ぶりのマイナス。前年比マイナス0.3%。

需要の多い銅条が16か月連続プラス。黄銅棒も16か月ぶりマイナス。輸出も10か月ぶりマイナス。

今後もマイナスが続くかどうか要注意。

電線は、前年比プラス0.4%の5万3500トン。輸出でプラス2.2%。

需要の多い自動車、建設電販がそれぞれ、プラス11.8%、プラス2.5%。全体として回復傾向。

銅輸出は、内需用途から地金が減少。スクラップは、メーカーの買い控え傾向から増加。

銅輸入は、内需用途から地金は増加。スクラップは、メーカーの原料地金シフトから減少。

## 【スクラップ需給予想】

前月に続き流通在庫は、伸銅品生産が好調だったこと、9月の銅建値が月末の1万円アップ、77万円のスタートだったことから、市中玉は出てくるのではではないか？

需要面に関しては、住宅で再び減少。自動車の生産は

好調で販売も2か月連続増加したが、ここ最近の地金の急騰を受けて足元のスクラップ価格も割高になりメーカーが地金を優先して使用していることからスクラップは余り気味なのではないか？

## 【価格・為替予想】

今月は10月18日から開催される中国党大会に向けての経済情勢、米国政府の税制改革の進展に左右される。

中国党大会に関しては、環境問題から規制が重要な課題となっており、環境規制が厳しくなるなか、10月のひと月間、北京周辺の天津、山西省、内モンゴル、河北省で鉄鋼はじめ、素材産業は全面的に生産停止との報道もあり、金属の供給が減少するのではないかと？

米税制改革問題に関しては、トランプ政権が9月中旬に議会委員会へ税制改革案を提示、10月に下院、11月に上院を通過するシナリオを描く。ただ、審議日程に余裕がなく、越年の可能性もある。

これらを踏まえた10月の銅価格は、中国党大会中に鉄鋼はじめ素材産業が全面的に生産が停止になったり、環境規制ならびに輸入規制が現状もしくは更に厳しくなり、米税制改革がねじれた場合は、先月一段高値の6900ドルを予測。上述のいずれかの場合は6700ドル。

下値はいずれの条件も満たされなかった場合で先月一段安値の6400ドル。

為替は、米税制改革の進展と北朝鮮情勢に左右される。米税制改革に関してはスケジュールに余裕がなく越年の可能性が高いのではないかと？

北朝鮮情勢に関しては話し合いに進展がみられず、更に悪化するのではないかと？

これらを踏まえた予測は、米税制改革の審議が予定通り進み、北朝鮮情勢でも悪化が見られなかった場合、円安で9月後半安値の113円台 (TTM) を予測。いずれもなかった場合は、円高の110円台を予測。

銅建値に関しては740~820円程度と予測している。

【完】

亜鉛くず 現金高価買取  
亜鉛ドロス・滓 ご照会乞う

再生亜鉛精錬

日進産業株式会社

代表取締役 星山えり

〒 580-0006 松原市大堀1丁目7-30

TEL 0723-31-3945代表

FAX 0723-31-3974